

一般管理情報と動作

ここでは、システム情報の表示方法と、スイッチでのさまざまなオプションの設定方法について説明します。

具体的な内容は、次のとおりです。

- 「システム情報」
- 「スイッチ モデル」
- 「スイッチのリポート」
- 「ファンの状態と温度のモニタリング」
- 「アイドルセッション タイムアウトの定義」
- 「ホストの Ping」

システム情報

[システムの要約] ページには、スイッチのグラフ、スイッチ ステータス、ハードウェア情報、ファームウェア バージョン情報、一般的な Power-over-Ethernet (PoE) ステータスなどが表示されます。

システム概要の表示

システム情報を表示するには、[ステータスと統計情報] > [システムの要約] の順にクリックします。[システムの要約] ページが開きます。

[システムの要約] ページには、システム情報とハードウェア情報が表示されます。

システム情報

- [システムの説明]: システムの説明。
- [システムロケーション]: スwitchの物理的な位置。この値を入力するには、[編集] をクリックし、[システム設定] ページに移動します。

- [システムコンタクト先]: 担当者の名前。この値を入力するには、[編集] をクリックし、[システム設定] ページに移動します。
- [ホスト名]: スイッチの名前。この値を入力するには、[編集] をクリックし、[システム設定] ページに移動します。デフォルトでは、スイッチのホスト名は、switch という単語と、スイッチ MAC アドレスの下 3 バイト (16 進数値の右側 6 桁) との連結になります。
- [システムアップタイム]: 最後のリブートから経過した時間。
- [現在の時刻]: 現在のシステム時刻。
- [基本 MAC アドレス]: スイッチ MAC アドレス。
- [ジャンボフレーム]: ジャンボ フレーム サポート ステータス。このサポートは、[ポート設定] ページで有効または無効にできます。

(注) ジャンボ フレームは、有効にしてからスイッチをリブートした後にのみサポートが有効になります。

TCP/UDP サービスのステータス

- [HTTP サービス]: HTTP の状態 (有効または無効) が表示されます。
- [HTTPS サービス]: HTTPS の状態 (有効または無効) が表示されます。
- [編集]: クリックすると、[TCP/UDP サービス] ページが表示されます。詳細については、「セキュリティの設定」を参照してください。

ハードウェアとファームウェアのバージョン情報

- [モデルの説明]: スイッチ モデルの説明。
- [シリアル番号]: シリアル番号。
- [PID VID]: ポート番号とバージョン ID。
- [ファームウェアバージョン]: ソフトウェア イメージのファームウェア バージョン番号。
- [ファームウェアの MD5 チェックサム]: ソフトウェア イメージの MD5 チェックサム。
- [ブートバージョン]: ブート バージョン。
- [ブートの MD5 チェックサム]: ブート バージョンの MD5 チェックサム。
- [ロケール]: 最初の言語のロケール (これは常に英語です)。
- [言語バージョン]: 最初の言語または英語の言語パッケージ バージョン。

- [言語の MD5 チェックサム]: 言語ファイルの MD5 チェックサム。
- [ロケール]: 2 番目の言語のロケール
- [言語バージョン]: 2 番目の言語の言語パッケージバージョン。
- [言語の MD5 チェックサム]: セカンダリ言語ファイルの MD5 チェックサム。

PoE 機能付きモデルの一般的な PoE ステータス

- [最大有効 PoE 電力 (W)]: PoE により給電可能な最大電力。
- [PoE 電力消費合計 (W)]: 接続されている PoE デバイスに給電された合計 PoE 電力。
- [PoE 電源モード]: ポート制限またはクラス制限。

システム設定の指定

システム設定を入力するには

ステップ 1 [各種管理] > [システム設定] の順にクリックします。[システム設定] ページが開きます。

ステップ 2 システム設定を変更します。

- [システムの説明]: スイッチの説明が表示されます。
- [システムロケーション]: スイッチの物理的な位置を入力します。
- [システムコンタクト先]: 担当者の名前を入力します。
- [ホスト名]: ホスト名を選択します。
 - [デフォルトを使用]: これらのスイッチのデフォルト ホスト名 (システム名) は `switch123456` です。123456 は 16 進数のスイッチ MAC アドレスの下 3 桁になります。
 - [ユーザ定義]: ホスト名を入力します。文字、数字、およびハイフンのみ使用できます。ホスト名の開始または終了はハイフンにできません。その他の記号、句読点、ブランクも使用できません (RFC1033、1034、1035 の規定により)。
- [カスタムログイン画面の設定]: [ログイン] ページにテキストを表示する場合は、[ログインバナー] テキスト ボックスにテキストを入力します。結果を表示するには、[プレビュー] をクリックします。

(注) ユーザが Web インターフェイスからログインバナーを定義すると、CLI インターフェイス (コンソール、Telnet、および SSH) のバナーもアクティブになります。

ステップ 3 [適用] をクリックし、実行コンフィギュレーション ファイルに値を設定します。

スイッチ モデル

すべてのモデルが Web ベースのスイッチ設定ユーティリティから完全に管理できます。

レイヤ 2 は、すべてのデバイスのデフォルトの動作モードになります。レイヤ 2 モードでは、スイッチは VLAN 対応ブリッジとしてパケットを転送します。レイヤ 3 モードでは、スイッチは IPv4 ルーティングと VLAN 対応ブリッジングの両方を実行します。

スイッチがレイヤ 3 モードで動作する場合、VLAN レート制限と QoS ポリサーは動作しません。その他の QoS 詳細モード機能は使用できます。

次の表では、ファストイーサネットポート (10/100) は FE、ギガビットイーサネットポート (10/100/1000) は GE として示されています。

(注) ポートの説明に使用されている略語は、ソフトウェアバージョンによって異なります。リリース 1.0 の場合、GUI では、ファストイーサネットを表す場合に「e」を、ギガビットイーサネットを表す場合に「g」を使用しています。

次の表に、さまざまなモデル、それぞれのポートの個数とタイプ、および PoE をサポートするポートの個数を示します。

スマートスイッチのモデル

モデル名	製品 ID (PID)	デバイスのポートの説明	PoE 給電	PoE をサポートするポート数
SG200-18	SLM2016T	GE ポート x 16、GE 特別目的コンボ ポート x 2		
SG200-26	SLM2024T	GE ポート x 24、GE 特別目的コンボ ポート x 2		
SG200-26P	SLM2024PT	GE ポート x 24、GE 特別目的コンボ ポート x 2	100 W	12 ポート FE1-FE6、 FE13-FE18
SG200-50	SLM2048T	GE ポート x 48、GE 特別目的コンボ ポート x 2		
SG200-50P	SLM2048PT	GE ポート x 48、GE 特別目的コンボ ポート x 2	180 W	24 ポート FE1-FE12、 FE25-FE36
SF200-24	SLM224GT	FE ポート x 24、GE 特別目的コンボ ポート x 2		

スマートスイッチのモデル (続き)

モデル名	製品 ID (PID)	デバイスのポートの説明	PoE 給電	PoE をサポートするポート数
SF200-24P	SLM224PT	FE ポート x 24、GE 特別目的コンボ ポート x 2	100 W	12 ポート FE1-FE6、 FE13-FE18
SF200-48	SLM248GT	FE ポート x 48、GE 特別目的コンボ ポート x 2		
SF200-48P	SLM248PT	FE1-FE48、GE1-GE4 FE ポート x 48、GE 特別目的コンボ ポート x 2	180 W	24 ポート FE1-FE12、 FE25-FE36

スイッチのリブート

ジャンボ フレームのサポートを有効にするなど、コンフィギュレーションを変更した場合、その変更を有効にするためにシステムをリブートしなければならないことがあります。ただし、スイッチをリブートすると、実行コンフィギュレーションが削除されるので、スイッチをリブートする前に、実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションに保存しておくことが重要です。[適用] をクリックしても、コンフィギュレーションはスタートアップ コンフィギュレーションに保存されません。ファイルとファイル タイプの詳細については、「システム ファイルの管理」の「ファイルとファイル タイプ」を参照してください。

[各種管理] > [コンフィギュレーションのコピー/保存] の順にクリックするか、ウィンドウの上にある [保存] をクリックして、コンフィギュレーションをバックアップできます。リモート デバイスからコンフィギュレーションをアップロードすることもできます。詳細については、「システム ファイルの管理」の「コンフィギュレーション/ログのダウンロード/バックアップ」を参照してください。

スイッチをリブートするには

- ステップ 1 [各種管理] > [リブート] の順にクリックします。[リブート] ページが開きます。
- ステップ 2 いずれかの [リブート] ボタンをクリックし、スイッチをリブートします。

- [リブート]: スイッチをリブートします。スイッチをリブートすると実行コンフィギュレーション内の保存されていない情報は破棄されてしまうので、ウィンドウの右上隅にある [保存] をクリックして、起動中に現在のコンフィギュレーションが保持されるようにする必要があります。保存オプションが表示されない場合は、実行コンフィギュレーションがスタートアップ コンフィギュレーションと一致しており、保存が必要ないということです。
- [工場出荷時設定に戻す]: 工場出荷時のデフォルト コンフィギュレーションを使用してスイッチをリブートします。このプロセスは、スタートアップ コンフィギュレーション ファイルを消去します。つまり、このアクションを選択すると、別のファイルに保存されていない設定はすべて削除されます。

**注意**

DHCP 自動コンフィギュレーションは、工場出荷時のデフォルト設定では有効になっていません。スイッチを適切にリブートして工場出荷時のデフォルト設定に戻すには、DHCP 自動コンフィギュレーションを無効にして（たとえば、ローカル ターミナルをスイッチに接続し、適切な CLI を実行して自動コンフィギュレーション機能を無効にします）、スイッチでローカル サーバからコンフィギュレーションが自動的にダウンロードされないようにする必要があります。

ファンの状態と温度のモニタリング

[ヘルス] ページには、次のデバイスのスイッチ ファンの状態と温度が表示されます。

SG200-50P

上記以外のデバイスについては、ファンの状態のみが表示されます。

スイッチの状態パラメータを表示するには、[ステータスと統計情報] > [ヘルス] の順にクリックします。[ヘルス] ページが開きます。

[ヘルス] ページには、次のフィールドが表示されます。

- [ファーステータス]: ファンの状態。[OK] は、ファンが正常に動作していることを示します。
- [温度]: スイッチの内部温度。

アイドルセッションタイムアウトの定義

[アイドルセッションタイムアウト]では、タイムアウトが発生するまでに HTTP セッションがアイドル状態を継続できる時間を設定します。タイムアウトが発生すると、ユーザは再度ログインし、セッションを再構築することが必要になります。

- HTTP セッションのタイムアウト
- HTTPS セッションのタイムアウト

HTTP または HTTPS セッションのアイドルセッションタイムアウトを設定するには

- ステップ 1 [各種管理]>[アイドルセッションタイムアウト]の順にクリックします。[アイドルセッションタイムアウト]ページが開きます。
- ステップ 2 対応するリストからセッションのタイムアウトを選択します。デフォルトのタイムアウトは10分です。
- ステップ 3 [適用]をクリックして、スイッチのコンフィギュレーションを設定します。

ホストの Ping

Ping は、リモートホストに到達できるかどうかをテストし、スイッチから宛先デバイスに送信したパケットが往復に要した時間を計測するためのユーティリティです。

Ping は、Internet Control Message Protocol (ICMP; インターネット制御メッセージプロトコル) エコーリクエストパケットを対象ホストに送信し、pong と呼ばれる ICMP 応答を待機することで動作します。往復にかかった時間が計測され、すべてのパケットロスが記録されます。

ホストを Ping するには

- ステップ 1 [各種管理]>[Ping]をクリックします。[Ping]ページが開きます。
- ステップ 2 次のフィールドに情報を入力して Ping を設定します。
 - [ホスト指定方法]: IP アドレスでホストを指定するか、名前でもホストを指定するかを選択します。
 - [IP バージョン]: ホストを IP アドレスで指定する場合は、IPv4 または IPv6 を選択し、選択した形式で入力することを示します。

- [IPv6 アドレスタイプ]: 入力する IPv6 アドレスのタイプを選択します。
 - [リンクローカル]: IPv6 アドレスによって、同一ネットワーク リンク上のホストが一意に識別されます。リンク ローカルアドレスのプレフィクス部は FE80 です。このタイプのアドレスはルーティング不能であり、ローカル ネットワーク内で通信する場合にのみ使用できます。リンク ローカルアドレスは 1 つだけサポートされます。リンク ローカルアドレスがインターフェイス上に存在している場合、この入力値が、コンフィギュレーション内のアドレスと置き換わります。
 - [グローバル]: IPv6 アドレスは、他のネットワークからも認識かつアクセス可能なグローバルユニキャスト IPv6 タイプになります。
- [リンクローカルインターフェイス]: IPv6 アドレスタイプがリンク ローカルである場合は、どこから IPv6 アドレスを受け取るかを選択します。
- [ホストの IP アドレス/名前]: Ping 対象デバイスのアドレスまたはホスト名。IP アドレスかホスト名かは、[ホスト指定方法]によって決まります。
- [Ping 間隔]: システムが Ping パケット間で待機する時間。Ping は、正常に実行されたかどうかに関係なく、[Ping 回数]で指定した回数繰り返されます。デフォルト値を使用するか、特定の値を指定します。
- [Ping 回数]: Ping 操作を実行する回数。デフォルト値を使用するか、特定の値を指定します。
- [ステータス]: Ping が正常に実行されたかどうかが表示されます。

ステップ 3 ホストを Ping するには、[Ping の実行] をクリックします。Ping のステータスが表示され、メッセージのリストに別のメッセージが追加されて、Ping 操作の結果が表示されます。

ステップ 4 このページの [Ping カウンタとステータス] セクションに Ping の結果が表示されます。